

CBRC Newsletter 42

<http://www.cbrc.jp>



CBRCはどうなるの？

浅井 潔

(Kiyoshi ASAI)

研究センター長

お台場に生命情報科学研究センター（第1期CBRC）が設立されてから13回目の春が訪れ、生命情報工学研究センター（現CBRC）は7年の最終年度を迎えます。外部の多くの方々から「CBRCはどうなるの？」と聞かれます。

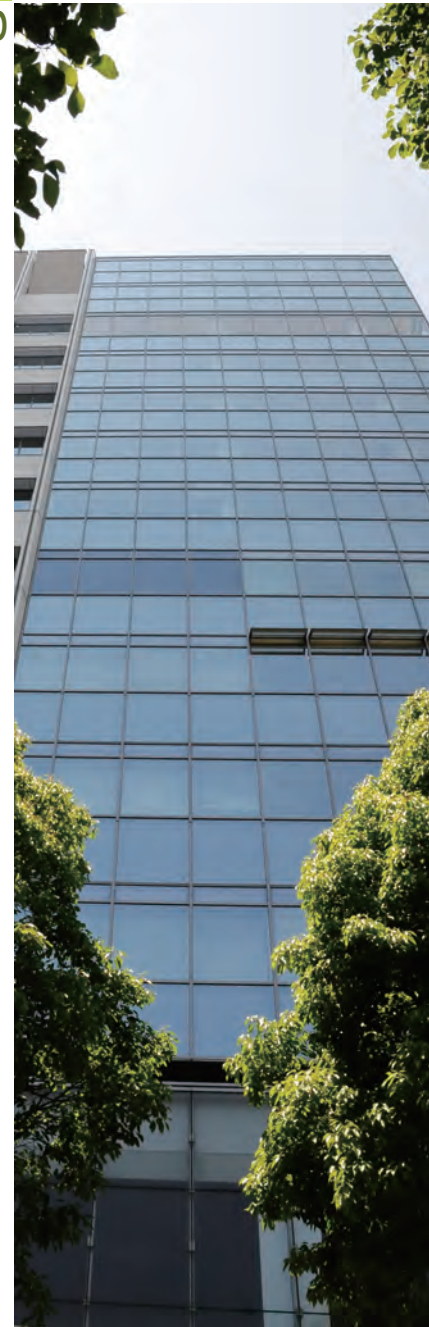
CBRCは、バイオインフォマティクス専門の研究センターとして、幅広い専門分野のドライ研究者が集まり、生命科学に情報学的・計算機科学的な方法論（アルゴリズム）・情報基盤（ソフトウェア・DB）の開発・提供と、最新の実験・計測技術から生まれるデータに対応した実用的な生命情報解析を両立させてきました。その産業技術研究としての目的は、創薬支援などの人々の健康に関わる技術革新（ライフイノベーション）と、微生物などによる物質生産を通じた環境・エネルギー・資源分野での技術革新（グリーンイノベーション）への貢献です。12年に及ぶ研究成果の蓄積と実力が評価され、経済産業省系だけでなく、文部科学省系、厚生労働省系のプロジェクトに参加しています。

CBRCはバイオインフォマティクス研究を推進する役割の他、実験研究者や海外の研究機関を含む様々な相手との研究交流・人材養成のコアとしての役割も担っています。これまでにCBRCに所属した研究者、共同研究に参加した研究者、人材養

成プログラムの受講者の総数は、数百人に及びます。

ライフサイエンスの大量データから有用な知識を抽出するバイオインフォマティクスの重要性は今後ますます高まります。バイオインフォマティクス分野で世界レベルの技術力を追及し続けるためには、最先端のデータを用いた応用研究を行うと同時に、一定の汎用性がある情報解析技術の研究に切磋琢磨することが大切です。特に、シーケンサーの革新と共にライフサイエンスにも押し寄せてきたビッグデータの波に対応するためには、バイオインフォマティクス研究者が日常的に議論し続ける環境は不可欠です。私は、日本のライフサイエンスのためにも、お台場に蓄積したバイオインフォマティクスの研究成果、研究環境、人材を散逸させるべきではないと考えています。

お台場のバイオインフォマティクスを今後も発展させるためには、新しい研究者の方々の参加が不可欠です。お台場でのバイオインフォマティクス研究に飛び込むことをご検討ください。我々は、産総研内外から寄せられるバイオインフォマティクス拠点としての期待に応え、これまでの蓄積を無駄にすることの無いよう努力いたしますので、皆様のご支援を引き続きお願いします。



エッセー 1

プロジェクト紹介(光山) 2

プロジェクト紹介(富井) 3

お知らせ 4